

医師会 × 行政

新型コロナに 負けないまちへ

新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。長期化するこの困難を乗り越えていくためにはどうすればよいか。

医療と行政のこれからについて、市川市医師会のみなさんと村越市長による意見交換を行いました。

図 0712-8641保健医療課

医師会と市が連携し、一人ひとりの生命を守る

村越 本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
新型コロナウイルスの感染が広がってから2年がたちました。この間、医療従事者をはじめとしてみなさんのおかげで、コロナへの対応を進めることができました。改めて感謝申し上げます。
市川市でも新型コロナワクチン（以下ワクチン）の3回目接種が始まり、国からはワクチンの交互相種も示されています。医師会の先生方からの意見も伺いながら、今後のコロナ対策を円滑に進めていきたいと思っています。

伊藤 医師会も感染流行の第4波、5波を経験する中で、市民のみなさんや行政のご理解、ご協力をいただきながらコロナへの体制を作ってきました。これからその成果が問われる、ということだと思います。
国、県、市といった全体を見た施策を進めていかなければいけない、集団を目指した整備。我々医師は目の前の患者個人を何とかしなければいけない、個人を目指した整備。ギャップがあることは認識していますが、目の前に患者がいる以上、このギャップを埋めていきたいと考えています。

村越 ありがとうございます。
会長のおっしゃった一人ひとりの市民に向き合うということは我々も全く同じだと考えていて、地方自治体の仕事だと捉えています。実際に困っている人を助けられないということはあってはならないことだと思います。医師のみなさんと同じ目線に立ちながら仕事を進めてまいります。

自宅療養者へのケアと、 ワクチンの交互相種の周知

伊藤 市において立ち上げた自宅療養者の支援システムは効果的な取り組みだと考えています。過去には病床が軽症の患者さんで埋まってしまい、本当に入院させなければいけない方を入院させられないという状況が実際に起こりました。そうすると、やはり自宅療養者の健康管理が大切になってきます。

福澤 ワクチンのことを言いますと、モデルナは有効なワクチンですが、後ろ向きな報道が先行してしまい、市民のみなさんが接種しにくい状況が作られてしまっています。今後、3回目接種を進めるなかでもモデルナへの不安が大きいのではないか、その点を懸念しています。

上白土 ファイザーを接種した方は、発熱や倦怠感といった、事前に想定された副反応がでて、ご本人たちもやむを得ないという感覚があったように思います。ところがモデルナを接種した方はいわゆるモデルナアームなど、想定していなかった副反応が出ることもある。こういう経験をしていると次回はファイザーを接種したいという方もいらっしゃると思います。ただ、モデルナも決して悪いワクチンではありません。厚生労働省も交互相種は可能としているので、モデルナについてももっと周知していただきたいです。

大野 ワクチン接種の対象も、今後5歳～11歳に広がる可能性があります。親は自分のこと以上に子どもの副反応を心配しますので、きちんと情報提供しないとなかなか5歳～11歳への接種は難しいでしょう。

医師の視点から見て、コロナ禍で 他に気を付けた方が良いことは

福澤 実はコロナ禍になってから各種検診の受診率が下がってきていて、がんの発見者数が落ち込んでいます。医療機関に近寄りたくないという気持ちもわかるのですが、悪性の疾患は早期発見が大切ですので、ぜひ検診を受けていただきたいです。

伊藤 慢性疾患がある方も同様で、糖尿病や高脂血症の患者さんなどは受診を抑制すると症状が悪化してしまいます。

村越 持病が悪くならないよう、コロナ対策と並行して健康増進の施策も進めないといけないですね。
家庭内での感染も問題となっています。今、流行しているオミクロン株は感染力がとても強いと言われていて、家庭内での感染を防ぐためにはどのようなことができるのでしょうか。

大野 家庭内感染を防ぐというよりも、家庭内にウイルスを持ち込まないことが大切で、一人ひとりが手洗いや密を避けるといった基本的な感染症対策を徹底することが必要です。
ただ、みなさん自粛疲れもあり、活動範囲が広がってきています。コロナ禍でして良いこと、いけないことはバランスが非常に難しいのですが、例えば一人で外を散歩したり、距離を取って屋外で過ごしたりすることは何の問題もありません。できないことの代替案を出していくことが個人の行動を修正することにつながるのではないかと思います。

村越 本日は、たくさんの良いアドバイスをいただきありがとうございます。これまでの経験を活かし、医師会のみなさんという強く連携を取ってまいります。早くコロナ禍を終えられるよう、職員一同頑張りますのでなにとぞよろしくお願いいたします。



市川市医師会会長
伊藤 勝仁 医師



市川市医師会副会長
福澤 健次 医師



市川市医師会副会長
大野 京子 医師



市川市医師会副会長
上白土 洋俊 医師



市川市長
村越 祐民

●この意見交換は1月7日に感染対策を行ったうえで行いました